

卒業生アンケート（研修医）結果報告書

2023年12月20日

医学部 I R 室

1. はじめに

本学医学部では、2016年に、学生が卒業時に修得すべき主要な能力を5つのコンピテンス（プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献）として設定しており、それぞれのコンピテンスに対して、合わせて47のコンピテンシーを卒業時の能力達成基準として設定している。

愛知医科大学卒業生（初期研修医1年目、2年目）および愛知医科大学卒業生を受け入れている初期研修先（研修病院）を対象として、本学のコンピテンス・コンピテンシーに関する卒業生の自己評価および本学卒業生を受け入れている研修先評価をアンケート調査した。

2. 調査概要

2-1. 調査項目

1) 初期研修医に対するアンケート

本学の47項目のコンピテンシーを「十分に身についた」、「身についた」、「身につかなかった」、「全く身につかなかった」の4段階にて、アンケート調査時点（2023年9月）での自己評価を行った。また、本学の教育全体に対する満足度を「十分に満足した」、「満足した」、「満足しなかった」、「全く満足しなかった」の4段階にて評価した。

2) 初期研修先に対するアンケート

本学のコンピテンス5領域7項目[プロフェッショナリズム（医師としての価値観・態度・姿勢、生涯学習・自己啓発・自己管理、チーム医療・医療安全）、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献]に関して、「十分に身についている」、「身についている」、「身につけていない」、「全く身につけていない」の4段階にて評価した。さらに、大学教育で強化してほしい点や改善してほしい点、本学卒業生の良い点・悪い点、本学に期待することや要望事項等について、コメントを求めた。

2-2. 調査対象

1) 初期研修医に対するアンケート

2023年度の研修医1年目および2年目を対象とした。

2) 初期研修先に対するアンケート

2023年度に初期研修医（1年目、2年目）を受け入れた91施設を対象とした。

2-3. 調査方法

1) 初期研修医に対するアンケート

2023年9月に愛知医科大学医学部事務部学生課から該当者にメールにて依頼した。初期研修医はWeb (Microsoft Forms)アンケートにて、アンケート回答時点における47のコンピテンシーに関する自己評価を行った。

2) 初期研修先に対するアンケート

2023年9月に初期研修医受け入れ研修先に愛知医科大学医学部事務部学生課から郵送にて依頼し、臨床研修担当部門担当医(代表者)に対して回答を求めた。また、併せて対象となる卒業生のリストも同封した。回答方法はWeb (Microsoft Forms)および郵送とし、Faxでの回答も受け付けた。

2-4. 回答者数と回収率

1) 初期研修医に対するアンケート

研修医217名中、75名から回答を得た(研修医1年目39名、研修医2年目36名)。回収率は35%であった。

2) 初期研修先に対するアンケート

初期研修先91施設中、69施設から回答を得た。回収率は76%であった。

3. 結果

1)初期研修医に対するアンケート (別紙1)

愛知医科大学の教育全体を振り返っての満足度(A48)は、研修医1年目では「十分に満足した」が23.1%、「満足した」が71.8%、「満足しなかった」が5.1%、「全く満足しなかった」が0%であり、研修医2年目では、「十分に満足した」が44.4%、「満足した」が55.6%、「満足しなかった」が0%、「全く満足しなかった」が0%であった。

コンピテンシーに対する学生の自己評価「十分に身についた」の割合は、卒業時から研修医1年目さらに研修医2年目にかけて年数を追うごとに低下する傾向にあった。

研修医1年目または研修医2年目において、各コンピテンシスで、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が10%以上のコンピテンシーを列挙する。

I: プロフェッショナリズム

<生涯学習・自己啓発・自己管理>

9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。

<チーム医療>

15. 常に医療の質を改善することを考え、質改善を実践できる。

II: コミュニケーション

21. 様々な ICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。

III: 医学の知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。

24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。

25. 疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。

26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。

28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。

29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。

30. 新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。

31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBM を実践できる。

IV: 診療技能

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。

36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。

37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。

39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。

40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

V: 地域社会への貢献

41. 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。

42. 地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。

43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。

44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。

46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。

47. 国際社会の健康問題を把握，説明することができ，可能な範囲でその問題に対処できる。

2) 初期研修先に対するアンケート（別紙2）

研修先からの各コンピテンスでは、「身につけていない」、「全く身につけていない」の割合が10%を超えるコンピテンスは、「医学知識と科学的探究心」、「診療技能」、「地域社会への貢献」であり、「診療技能」に関しては、「身につけてない」および「全く身につけていない」割合が20%を超えた。

<コンピテンス評価についてのコメント>

- 非常にまじめですが、コミュニケーションと医療安全の観点からは、少し足りない部分を感じております。
- 聞くと知識はあるが、断片的に覚えているという印象。基礎知識をいかに臨床に活かすかという思考力・応用力が欲しいところです。
- コミュニケーション能力の高い研修医が多いです。
- 臨床における疑問点は的確に質問・確認できる。自己判断で診療を進めない点は指導医として安心できる。疑問点をしっかりと質問して理解し、問題解決する能力があると評価している。

<卒業生の知識面や技術面などから見て、大学教育で強化・改善してほしい点>

- 事前に症例、手技などが分かっているにもかかわらず、何の準備もしてこないことがある。知識や手技を、教えてもらうことを待つのではなく、事前に自ら調べ、準備する姿勢を身に付けてきてほしい。
- 臨床研修が始まったら（指導医の指導のもと）できるだけ早期に現場での実践を行わせたいと思いますので、シミュレーターを用いた教育はぜひ学生のうちに設備の整った大学での実習の中で十分に行っていただけることを望みます。
- まずはベッドサイドに患者を見に行き診察する、という基本を徹底して欲しい。
- プレゼンテーション能力を強化して欲しい。
自分の抱えている問題点や疑問点を的確に説明できる能力が必要だと考えます。
- 学習意欲、自己啓発
働き方改革で時間制限がある中での指導となる為、研修医本人の意識がより大切になる。

<本学卒業生の良い点>

- とても真面目で周囲との協調性も良好です。
- 過去に来ていただいた卒業生もそうでしたが、当院に来てくれる人たちは素直な方々

が多い印象があります。

- 明朗快活な卒業生の方が多いです。
- 人柄が良い

<本学卒業生の悪い点>

- 他研修医と比較すると積極性に乏しい、症例を振り返り自ら学ぶ能力に乏しい。
- 積極性が乏しい。自己肯定力が低い(本当はもっと能力があるのに、自信が無いように見える)
- プレゼンテーション能力が不足していると思います。

4. まとめ

今回、卒業生アンケートとして、1)初期研修医に対するアンケート、2)初期研修先に対するアンケートを行った。1)に関しては、本学卒業生の研修医に対して、本学のコンピテンシーの修得度に関する自己評価および本学に医学教育に対する満足度を回答してもらった。2)に関しては、研修先からの本学卒業生の卒業時コンピテンスの評価および本学卒業生初期研修医に対するコメントおよび本学に対するコメントを求めた。

1) 初期研修医に対するアンケート (別紙1)

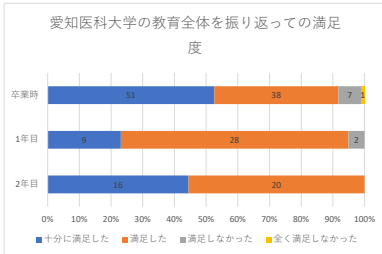
卒業時コンピテンシーの習得度に関するアンケートの結果、5つのコンピテンスのうち、「診療技能」に関するコンピテンシーに関して、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が多かった。2022年度卒業生(研修医1年目)に関しては、2020年度および2021年度が臨床実習中の4年生および5年生であり、コロナによる一部臨床実習中止を余儀なくされた学年であり、この影響が出ている可能性は否定できない。「地域社会への貢献」に関しては、これまで、低いコンピテンスの修得度であったが、これらに関しては、在学中に講義や実習を通して、地域医療に対する関心を高めるような教育をさらに強化する必要があると考えられる。

2) 初期研修先に対するアンケート(別紙2)

研修先病院から本学卒業生初期研修医に対するコンピテンส์評価や本学卒業生の良い点・悪い点、大学への要望等などのアンケート調査を行った。研修先の評価は、「診療技能」に関するコンピテンシーに関して、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が多かった。2022年度卒業生(研修医1年目)に関しては、2020年度および2021年度が臨床実習中の4年生および5年生である。上記にも述べたが、コロナによる一部臨床実習中止を余儀なくされた学年であり、この影響が出ている可能性は否定できない。

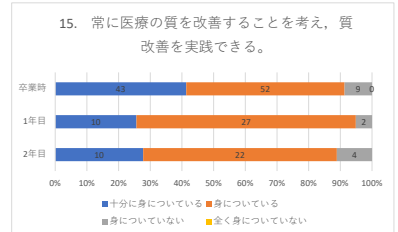
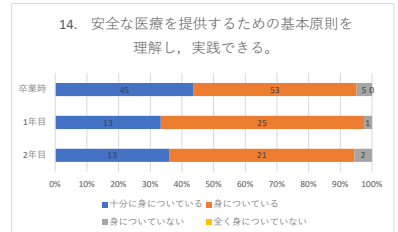
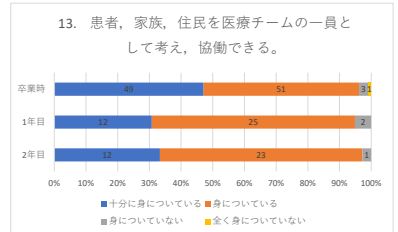
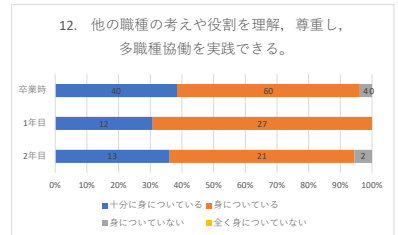
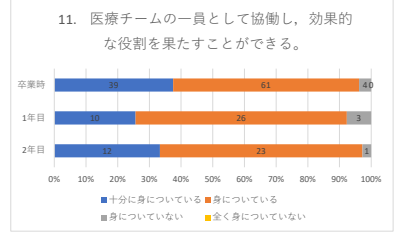
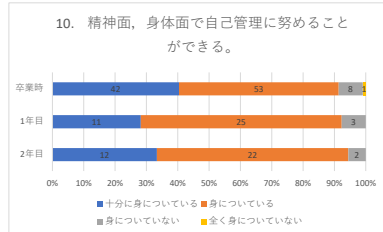
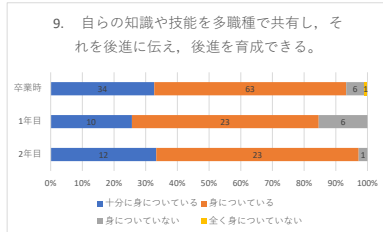
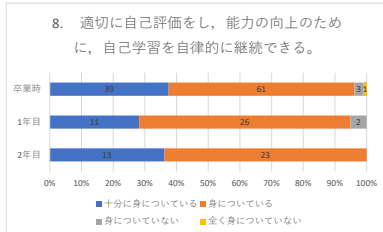
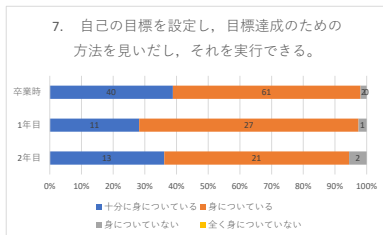
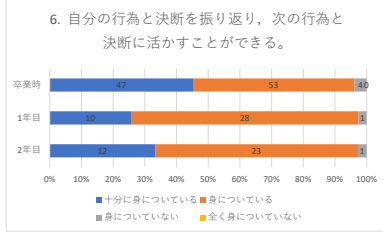
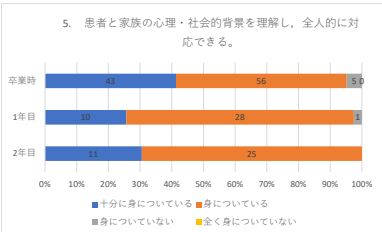
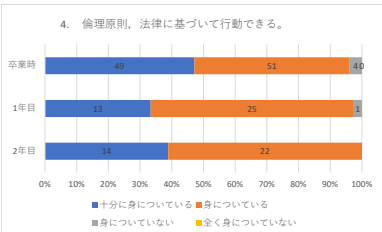
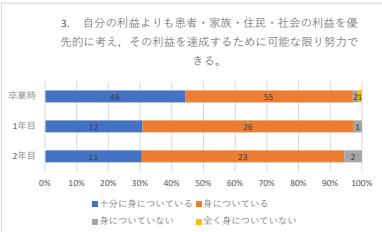
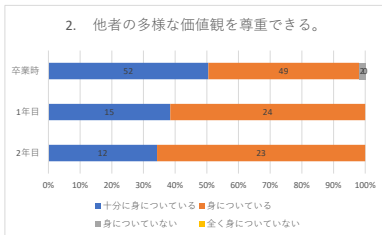
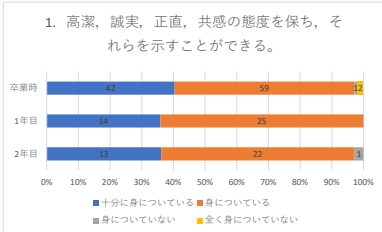
自由記載に関しては、良い点として、素直であること、明朗快活であること、人柄が良いことなどが指摘される一方で、悪い点として、積極性や自己肯定感が低いこと、プレ

ゼンテーション能力の不足などが指摘された。さらに、社会人の素養の修得や global 人材の育成、日本を支える気構えなど、本学への期待・要望があった。



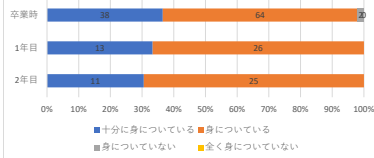
卒業時 (2022年度) n=104
 1年目 n=39
 2年目 n=36

I.プロフェッショナリズム

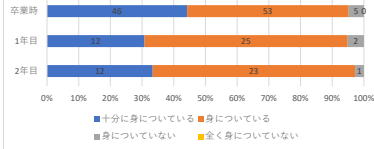


II. コミュニケーション

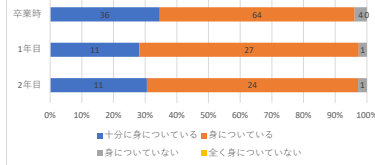
16. 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できる。



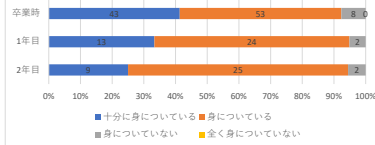
17. 患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会の心理・生活・文化的背景を適切に把握するための、支持的・共感的なコミュニケーションをとることができる。



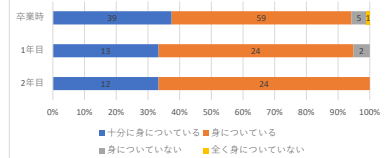
18. 効果的な協働のために、相手に応じて適切な方法で情報の収集・集約・伝達を行うことができる。



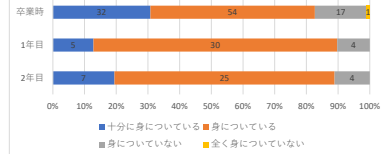
19. 患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有（インフォームド・シェアード・ディシジョン・メイキング）ができる。



20. 個人とだけでなく、集団、社会との適切なコミュニケーションをとることができる。

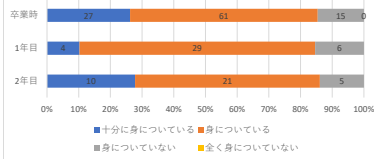


21. 様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。

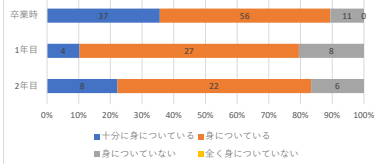


III. 医学知識と科学的探究心

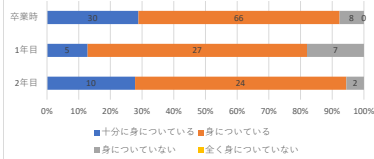
22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。



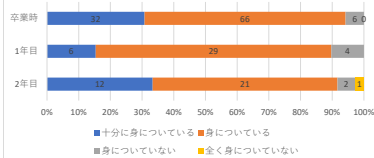
23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。



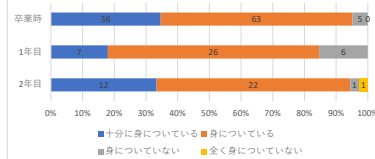
24. 疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。



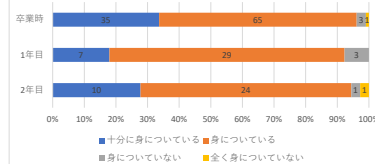
25. 疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。



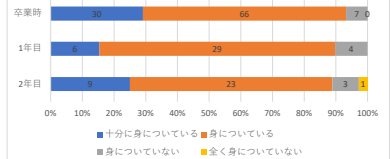
26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。



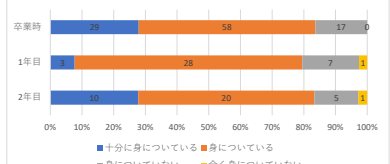
27. 人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。



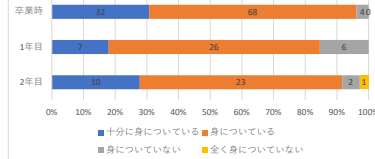
30. 新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。



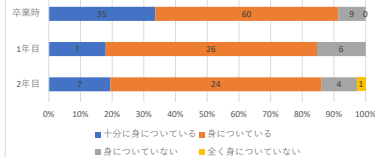
31. 医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できる。



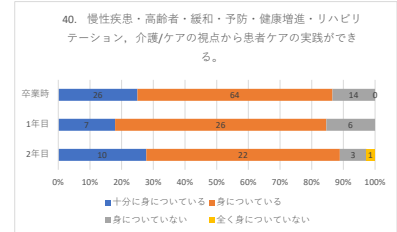
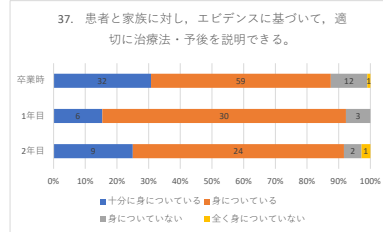
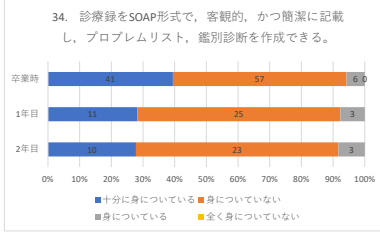
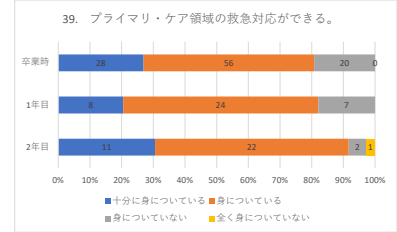
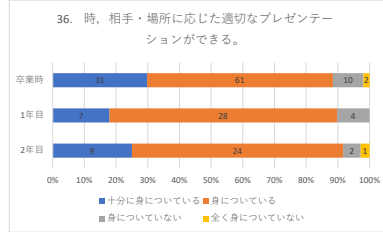
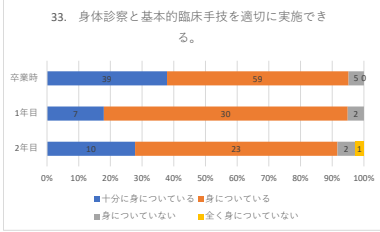
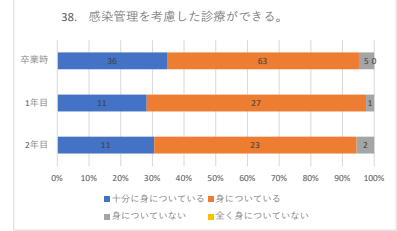
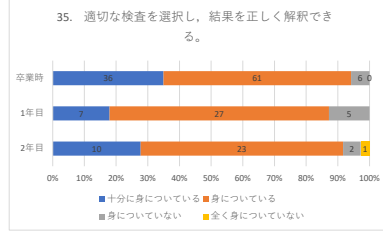
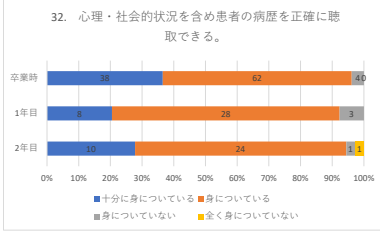
28. 疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。



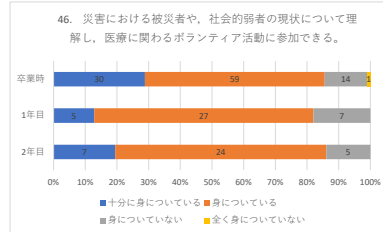
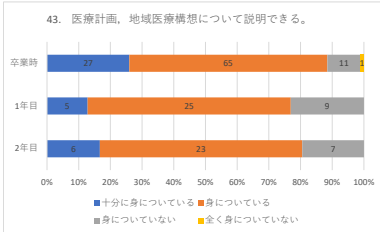
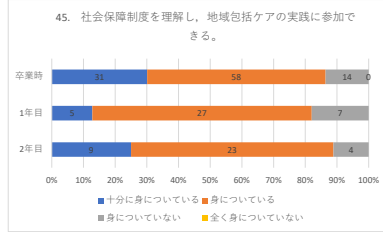
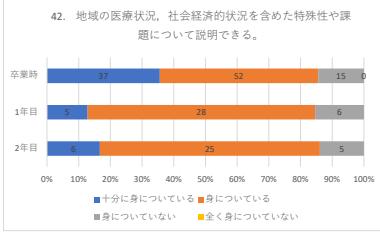
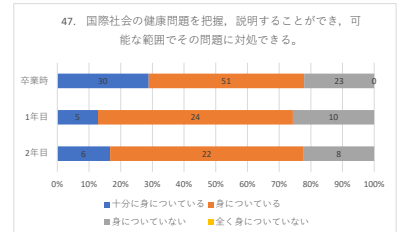
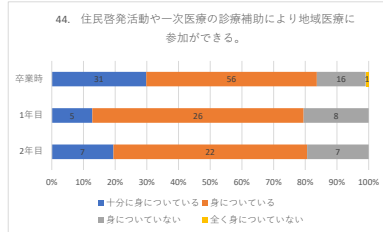
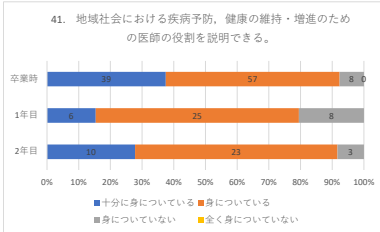
29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。



IV. 診療技能



V. 地域社会への貢献



別紙2

